

未来のコンピュータ

僕は、夢を見たようです。それも未来の夢です。時代は21世紀半ば、すでに太陽系の各惑星に生活空間ができていて、「コスモバス」と呼ばれるスペースシャトルが火星や木星に向けて毎日出発して行きます。人類の人口は、百億人を突破してもはや地球には住む場所がない状態だったのです。ところがロボットの姿が見当たりません。僕は驚きました。未来を想像すると必ずといって良いほど出てくるロボットの姿がないのです。「20世紀の科学技術の発達から考えると、既に地球はロボットが溢れていても不思議ではないはずなのに！」と独言を言いながら街の公園を歩いていると突然「私を呼びましたか？」と言って僕の前に半透明の光源が現れました。その光源は「ニューロ」と名乗りました。その時の話を再現してみます。

出演者 ピュー太

ニューロ(?)

ピュー太：お前は誰だ！

ニューロ：私はニューロといいますが。あなたが「ロボットがいない」と言うから出てきました。

ピュー太：それじゃ君はロボットなのかい？

ニューロ：いいえ、ロボットとは少し違いますね。

ピュー太：それじゃ生物かい？

ニューロ：そうとも言えませんが、だって形がないものですから。

ピュー太：それじゃ一体何だい？

ニューロ：多分あなた達が、意識とか呼んでいるものだと考えてください。昔の言い方だとコンピュータかな？

ピュー太：何だかよく分からなくなってきたぞ。ウムー・・・そうか！ 人工知能コンピュータとかニューロコンピュータのなれの果てかい？

ニューロ：なれの果てとはひどいですね。せめて最新バージョンとでも呼んでくださいよ。ピュー太：ごめん、ごめん。コンピュータと話をするのは、初めてなんだ。許してくれ。

ニューロ：まあいいでしょう。でもコンピュータとは言わないで下さい。その名前はずっと昔になくなりました。今は「カルチャー」と呼ばれています。

ビュート：カルチャー？ 文化と言う意味かい？

ニューロ：そうです。そして僕の名前はニューロです。よろしく。

ビュート：ニューロ君か。神経細胞と言う意味をもじったのかな？ それにしても驚いたな、あのコンピュータがこれほど進歩しているとは想像もつかなかった。20世紀末のコンピュータ技術の進歩はものすごい勢いだったけど、それがここまですべて発達するとはね。

ニューロ：そんなにびっくりしないで下さい。世の中には私のようなカルチャーが人間一人に一人（？）ずつ一対一の対応をしているんですから、人間の数だけカルチャーがいることになるんです。

ビュート：それは凄いな。それなのに、普段は目に見えないとは、まるで背後霊だね。

ニューロ：でも怖がらなくていいですよ。私は、あなたが生まれた時からあなたの意識と共にいるんですから。

ビュート：また良くなるってきたぞ。ともかく君は、僕に何かをもたらしてくれ、とやうことだな。何かわからないことがあったら、呼び出せばいいのかな？
ニューロ：そうですね。あなたに聞かれたことで、私がわからないことがあれば、調べて伝えますから。

ビュート：どうやって調べるの？

ニューロ：この太陽系には「ソフィスネットワーク」と呼ばれる、知識ネットワークが張

られています。このネットワークは、カルチャー同士のネットワークになりま
すから、いろいろな人間達の知識の固まりと言えます。これを利用すれば容易
に調べられるわけです。ただし、その知識をどう利用し、判断するかは、あな
たの仕事です。あなたが必要な知識だと思えば、私は保存しておきますが、あ
なたが間違った知識だと判断すれば私は保存しません。

ビュート：ちょっと待ってくれ、すると君は、僕の知識ベースということになるのかな？
ニューロ：そう考えるのがいいようですね。お互いに、お互いを教育しながら共に成長し
ていきましょう。

ビュート：それじゃ、君と僕の違いは何なんだい？

ニューロ：それは、意志というか欲を持つか持たないかの違いです。私は、欲を持って
いません。

ビュート：なにやら哲学の世界に入ってきたぞ。

とこんなところで、目が覚めてしまいました。ピュー太君には何やら恐ろしくも頼もしくも感じられた夢でした。ただこの夢の中には大変面白いことがたくさん隠されています。その一つは、目に見えないカルチャーと呼ばれたものです。これは現在研究が進められているバイオコンピュータの未来型を考えたものですが、完成された製品は、人間の目に見えずに必要な時にのみ現れてくるということです。現在のコンピュータは、机の上でどっかり腰を据え、大きな空間を確保しています。これはまだ、コンピュータが発展途上製品であることを意味しており、完成期に入ればシンブルからコンパクトへ、そして目の前から消えると考えたわけです。またソフィスネットワークと呼ばれたものは、人間一人一人の頭脳の知識ベース（カルチャー）をネットワークで結ぶことを考え、知識の共有をねらったものです。こんな楽しくも恐ろしくもある世界が実現するかどうか分かりませんが、現在研究が盛んに行われている人工知能やバイオコンピュータ、マルチメディア、そしてネットワークの技術をしっかり見据えておく必要があるのも事実です。

夢は夢ですが、皆さんはどう考えますか？